

## つながりを大切に

## マタイ16:13~20 / 笠原光見

みなさん今年の甲子園も熱かったですね。決勝戦は仙台育英高校と慶応高校で、栄冠を手にしたのは慶応高校でした。仙台育英の須江監督は埼玉県さいたま市の出身なんですよ。須江監督はとにかく選手たち、学生たちとのコミュニケーションをしっかりとる、関わり、交わり、つながりを大切にする監督だそうです。

須江監督はこんなことを言っています「監督の考えや思いは口に出したり、文書で示したりしなければ絶対に伝わらない。以心伝心なんてことはあり得ず、表現しない限りは届かない。」

以心伝心はない。思いや、考えはしっかり声に出して伝えていかなければならないし、届けたい思いはちゃんと表現しなければ届かない。思いや考えをちゃんと表現し、届けることで、人とのコミュニケーションは豊かなものとなるし、関わりや、つながりは確かで、強いものとなる、ということなんだと思います。

聖書は言います。この世界の創造主であり、オーナーであり、監督である神は、思いを込め、心を込め、愛を込めていのちを与えた、あなたという唯一無二のかけがえのないいのちの存在との関わり、交わり、つながりを保ちたい、守りたい、大切にしたい方なんだと。

そして、神は私たちが創造主なる神さまとの確かなつながりの中で、安心を得てほしい、生きる力、勇気、希望を得てほしい、救いを得てほしいのです。だから預言者を通して、聖書のみ言葉を通して、この世界とすべてのものに呼びかけ続け、語りかけ続け、働きかけ続けてくださるんです。

聖書は言います、いのちの源である神とのつながりが断ち切れた人に待っているのは「滅び」なのだ。

神さまは、神さまの最高傑作であるあなたという大切ないのちの存在が減っていくことを、黙って見ている、指をくわえて見ているような方でじゃありません。神さまは決して見捨てることも、見限ることも、見放すこともなく、あなたとの確かなつながりをもつことができるように、神さまから呼びかけ、働きかけ続けてくださっているんです。

さて、今日の福音書でイエスさまは弟子たちに「人々はわたしのことを何ものだと言っているか」とたずねます。弟子たちは洗礼者ヨハネ、エリヤ、エレミヤ、預言者の一人だ、というものもいます、と答えました。つまり人々はみんなイエスさまのことを預言者の一人だと受け止めていたようです。預言者とは、その文字とおりに神さまの言葉を預かりその言葉を人々に伝える者のことです。人々からは神さまから言葉を語る偉大な人物として受け止められていました。しかし、どんなに偉大な人物でも私たちと同じ人間であるということに変わりはないことも確かなことです。

イエスさまは弟子たちに尋ねます「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」。すると弟子のペトロが答えます「あなたはメシア。生ける神の子です」と。

メシアとはキリストのこと、つまり救い主のことです。弟子のペテロはイエスさまを、あなたはキリストです、救い主ですと、信仰告白するんです。

ペトロは、様々な奇跡を行い、多くの群衆が追いかけ、権威ある教えをされ、輝いて見えるイエスさまの姿から、「あなたはキリストです」という大胆な信仰告白したのかも知れません。

しかし、このときのペトロの信仰告白は決して揺るぎないものではありませんでした。なぜなら、ペトロはイエスさまが人々から見捨てられた途端に、自分はイエスさまの仲間じゃない、イエスさまと関係ない、イエスさまと知り合いじゃない、とイエスさまとのつながりを強く否定しているからです。

神さまがイエス・キリストを通して与えてくださった結びつきをペトロは断ち切ることをしてしまうんです。ただ、イエスさまが弟子たちに約束していたとおりに、十字架の死から三日目に復活さ

れ、主イエス自ら再びペトロとのつながり、結びつきを回復してからのペトロの信仰は揺るぎないものとなっていきます。

死に打ち勝ちよみがえられた主イエス・キリストとの確かなつながりと、注がれ続けた主の愛がペトロを変え、彼の信仰が確かなものとされていったのです。何もかも神さまからの恵みによるものです。私自身の信仰生活を振り返ってみてもそうです。神さまからの招きがあり、支えがあり、導きがあり、神さまとのつながりが保たれ、今こうしてみなさんとここにいる。

キリストを信じるすべての者に希望を与える主イエス・キリストの死からの復活の出来事は、イエス・キリストを信じる者たちに与えられる、約束されている、死からの復活があることの先例です。先例があるということは、私たちの心に安心を与えてくれるものとなるでしょう。

あるお医者さんの話を聞きました。小さな女の子が不安げな表情で、熊のぬいぐるみをぎゅっと抱きしめながら診察室に入ってきたそうです。看護師さんもお母さんもいろんな言葉かけをしますが、少女の不安や恐れは解消される様子がなかったそうです。そこで医者先生が、少女が抱きしめていた熊のぬいぐるみの頭に聴診器を当てて「うん、大丈夫だね」今度はおなかに当てて「何の問題もないね」といって熊のぬいぐるみを診察したそうです。熊のぬいぐるみが先例となってくれた、何にも怖いことはないんだ、ということを示してくれたお陰で少女の不安や恐れは解消され、先生の診察に応じてくれたそうです。

キリストの復活という先例を目の当たりにした弟子たちはそれまでの恐れや不安が嘘のように吹き飛び、差別や迫害にも臆することなく、熱のこもった福音宣教がはじまったことは聖書に記されていることです。

神さまは、御子イエス・キリストのいのちを通して、この世界と私たち一人一人のつながりを保とう、守ろう、大切にしようと思いはっきりと示してくださいました。その神さまのこの世界と、私たち一人一人に向けられている熱い思いと、限りない無償の愛を胸に、弟子たちは福音のみことばを分け隔てすることなく伝え、届け、知らせていき、世界の至る所にキリストとのつながりを大切にする者たちの集まり、キリストの教会ができたんです。

神さまは、私たちとつながるために、御子イエス・キリストのいのちを差し出してくださいました。私たちとつながるためにキリストの教会を建ててくださいました。私たちとつながるために、福音のみことばを与えてくださいました。私たちとつながるために。

神さまは、神さまの最高傑作であるあなたというかけがえのないいのちの存在とのつながりを保ちたい、守りたい、大切にしたい。そして、救いたいんです。

私たちは、御子イエス・キリストの十字架と復活の出来事を通して表わされた、神さまの私たちへの熱い思いと、限りない無償の愛をしっかりと受け止め、信じて、これからもキリストとのつながりを大切にしていきたい。

そして、キリストとのつながりの輪を広め、神さまの思いと福音のみことばを伝え、キリストとつながることのできたことを互いに喜び、感謝し、讃美して生きていく者でありたいです。